

請 願 文 書 表

(都市計画局)

受 理 番 号	2 0	受 理 年 月 日	令 和 5 年 9 月 28 日
件 名	養正市営住宅団地再生計画の見直し等		
要 旨	<p>私たち養正学区の住民は、元々京都大学や下鴨神社の近くであることと共に、獨證寺と聞光寺の二つのお寺を中心ににぎわいのある暮らしを作り上げてきた。戦後、私たちは密集住宅地を京都市に提供し、協力して改良住宅として新たな暮らしを再構築してきた。その後、各家庭の事情で団地外に引っ越されて空き住戸が出た後も再募集されることはほぼなく、養正のまちが戸数を減らし町の活気が失われつつある。600世帯程度あった住戸は280世帯を切る状況となっている。</p> <p>今、この養正地域について団地再生計画が策定されている。これまで住戸配置や間取りについて住民の声は一切聴かれることはなく、このままでは活気に満ちた養正のまちの再生を期待することができない。</p> <p>京都市側の計画は人口を減らした現住戸数のみの計画で、高齢化し世帯人数が減っていることを理由に35平米、45平米、60平米と、今にも増して狭小住宅を建設しようとしている。この計画では地域の高齢化・人口減少を加速させ、未来の活気あふれる養正学区への展望が見いだせない。</p> <p>市営住宅の建替えについて計画の変更を求める署名を集めながら住民の意見を聴いたところ、21棟のような多人数世帯中心の住戸配置にするべきだ、今でも狭いのにこれ以上狭い部屋には入りたくないという意見が多く上がっていた。ほぼ全ての住人が現行計画に不同意を示している。集まった住人署名は9月27日現在で165筆に及ぶ。</p> <p>建物はメンテナンスを繰り返せば100年は持続させることができる中で、今のことだけを考えた団地計画では、その後の世代交代の社会変化に対応することができない。SDGsの観点からも持続可能なまちづくりが必要である。</p> <p>隣近所の人々が助け合いの中で暮らせるように、全ての世代が安心安全で暮らしやすい魅力ある持続可能なまちづくりを目指して住戸配置を計画してほしい。</p> <p>ついては、養正地域の住民としてこれからのまちづくりを展望し、以下のことを願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 35平米という狭小住宅をなくし、未来のまち再生のために子供のいる若い世帯からお年寄りまで暮らせる住戸面積を確保すること。 2 住民意見を反映せずに作られた現在の計画に基づく契約は、今議会では結論を出さず議論を継続すること。 		
請 願 者			
紹 介 議 員	井崎 敦子、加藤 あい、とがし 豊、くらた共子、平井 良人		
付 託 委 員 会	まちづくり委員会		